

<p>1 学校教育目標</p> <p>自ら学び、考え、正しい判断のもとに行動できるよう豊かな人間性を身に付けた心身ともに健康な生徒を育成する。</p> <p>(1) 学級・学年や学校での集団生活を通して、市民生活や社会人としての基礎基本を身に付けた生徒を育成する。</p> <p>(2) 自己の目標を実現する為、学業や資格取得に主体的・積極的に取り組む生徒の育成に努める。</p> <p>(3) 明るく、素直な心を持ち、人を思いやることのできる徳知体のバランスの取れた人間形成に努める。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>学習活動や学級経営・ホームルーム指導を通じた集団・仲間づくりや部活動やインターンシップ(キャリアチャレンジ)・実習・体験活動を通して「わかる・できる喜び・学ぶ楽しさや役に立つ・認められる喜び」を実感させ「一人ひとりが自信を持ち社会に必要とされる・貢献できる喜び」を体験させることを教育の指針とする。</p> <p>(1) 学力の向上 (2) 生徒指導と心の教育の推進 (3) 進路保障 (4) 部活動・生徒会活動・ボランティア活動・図書館(読書)活動の促進</p>

3 自己評価総括表		評価基準		A:できている	B:概ねできている	C:できていない
大項目	小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	建学の精神と教育目標・方針	学級経営への教育方針の反映 保護者との連携の促進	基本的生活習慣の確立と健康管理や安全指導の充実を図る	・生徒一人ひとりの個性を把握し、学習面・生活面での意欲の向上に努める ・連絡網(安心メール)・ホームページ・電話自動受付等を通して保護者と連携を取り合う。	A	2者面談や学校行事にイベントなどの場を活用し、生徒一人ひとりに応じた指導を繰り返す。学習・生活面での改善ができています。その結果として、生徒の出席率も向上し、精進・成績優秀となる生徒の割合も向上しています。
	教育環境の整備	教育環境整備を点検し、危険箇所等の早期改善を図る	教室、特別教室の安全点検と補修及び周辺環境の整備・充実を図る	・適宜、施設を点検し、危険箇所の補修・改善を行う	A	学校敷地内に市道があるが、登下校及び授業での教室移動では事故なく過ごせている。安全指導を心がけていきたい。
学力向上	わかる授業への取り組み	生徒の理解度の把握	「授業への取り組みが消極的」以外の生徒の割合90%以上を目指す	1学期に行った「学校生活、および授業への取り組み」についてのアンケート調査をもとに、職員会議で結果を周知し、各教科研究授業を行うように要請しました。	C	教科によっては研究授業を全員に実施し、検討を重ね改善に取り組みましたが、実施しない教科もあり、最終的な成果が出たかどうかは難しいです。ベテランから若手まで研究授業はするのが当然という土壌を作っていくべきです。
	学年の取り組み	学習習慣・基礎力の定着と検定等の合格	漢検、数検、英検、朝・夕の課外や宅習ノート、個別指導	総合ビジネス科、および数学科、英語科を中心に徹底した個別指導で意欲のある生徒達に応えました。	A	今年度は、総合ビジネス科の検定取得者数が格段に増えました。また、数検、および英検の合格者の数も、以前のように特進コースだけではなく、全科全コースにおいて増加しました。
キャリア教育 進路指導	進路目標の実現	・進路実現につながるキャリア教育の実践と基礎学力の養成 ・資格取得の推進 ・教育改革への対応	・進路講演会やガイダンスを実施し、職業観の育成と適性の模索をしていく中で進路の意識を高める。 ・社会人として対応できる「挨拶」を含むマナーの向上 ・オープンキャンパス及び企業見学の参加率100%を目標とする ・教育改革における大学入試共通テストや学びの基礎診断などの情報収集に努め教職員および生徒に還元する。 ・英語4技能評価やPDCAサイクルを踏まえたアクティブラーニングを取り入れた授業改革を検討する。	①LHRの活用や総合的な学習の時間との連携を図り、進路学習に取り組んでいく ②各学年、講演・ガイダンスを年3回以上実施を目指すとともに、各行事が有機的に連携するようにする。 ③e-learning(すらら、スタディサプリ)の活用 ④進路相談、個別面談の充実 ⑤外部講師による面接指導の実施 ⑥進路情報の提供 ⑦資格取得によるAO、推薦入試の活用 ⑧総合探究コースと総合ビジネス科ではインターンシップを通して職業体験を実施 ⑨各教育サポート業者からの情報収集や、研修セミナー等に参加し、本校の教育と生徒の実情に合わせた取り組みを検討・模索する。 ⑩これまで取り組みを強化してきた実用英語技能検定をはじめとする外部試験を比較検討する。 ⑪資格取得の促進と基礎学力向上を目的とする外部試験の導入。	B	コロナウイルスの影響で他授業との連携が図りにくい状況であった。6月に校内進路ガイダンスを実施したが、その後学年一斉的なガイダンスは実施できなかった。日程は遅れながらも、進路についての講話は実施した。特進コースにおいて、これまで通りe-learningは実施しており、利用状況は大変優秀であった。進路相談、個別面談は担任が中心ではあるが、進路部の先生方は朝7:30~放課後は18時30分までは個別指導していた。外部講師はコロナウイルスの影響でほとんど招致できなかった。進路情報は希望調査をもとに、個別に行っていた。本校生徒の合格者の90%がAO・推薦入試であった。インターンシップは実施できなかった。サポート業者の利用は一部行われた。コロナウイルスの関係で県外から話者が来れなかった。英検・韓国語は外

					国語科を中心に取り組まれていた。英検と外部試験の比較については未定である。外部試験の導入については未定。
	一人ひとりの進路目標達成	・個に応じた進路指導の推進	・多様化する生徒の進路目標への対応の推進 ・多様化する入試制度への対応 ・課外、資格対策の充実	①オープンキャンパス等への積極的参加 ②入試傾向の分析と対策の充実 ③課外、模試、学習合宿等の実施 ④校内外の進路ガイダンスへの参加 ⑤組織的な個別指導、面接指導の充実 ⑥小論文・作文指導の充実と負担軽減に取り組む ⑦企業や各種上級学校の情報を早期に知る	C オープンキャンパスはリモート以外は極めて少ない。就職については、春休みや4月から休校中であっても、スマホを使用し、面接の練習に取り組んでいた。訪問型のオープンキャンパスはほとんど実施されなかった。小論文・作文は国語の教員を中心に行った。企業へ訪問できないこと。企業も自粛してること、大学・短大・専門学校も来校できなかったことから、情報は多少集めにくかった。しかし、進路に関しては特別の事情を除き、ほとんどが決定された。5%の生徒がアルバイトなどにより未定者として記録した。
生徒指導	交通ルールの徹底	交通マナーの向上と登下校時の交通事故防止	登下校時における学校周辺の一列通行と盗難予防の意識を高めるための二重ロックの徹底。また、校舎間における公(市)道の横断の安全性を高める。	生徒指導部常駐者及び交通の係りの教師、週番担当者、学年主任により、正門を中心に駐輪場入り口などで、登下校時の交通指導を毎日行う。また、駐輪している自転車のチェック(たまに持ち主不明の自転車も出てくるので)及び、二重ロックの点検を定期的に行う。	B 今年度は、交通ルールに関する苦情が2回あり、該当生徒に申し出るよう呼びかけたらいずれとも申告があった。その後、申告した生徒を呼び出し生徒指導室にて事情を聞き指導した。二重ロックに関しては徹底できていなかった。生活向上委員会を動かすように年度当初は計画していたが、新型コロナの影響で、活動自体が自粛した状態で一年が終わってしまった。
	校則に対する規律意識を高める	校則に対する自主的な規律意識の有無	SNSなどのインターネットを介した誹謗中傷等による生徒間の問題を減少させる。	『SNS』・『薬物防止』・『交通安全』等の講話を実施することで、生徒の防犯意識並びにルールを順守することの大切さを高めるようにする。	A 新入生を対象に『SNS講話』と、『デートDV』講話を行い、普段の生活の中に生じる危険性を実感させることに努めた。借しむらくは、新型コロナウイルスの影響で、全学年集めることが困難だったことと、講話も厳選せざる終えなかったことがあげられる。
人権教育の推進	職員の人権意識向上	生徒の人権に配慮する力の向上	校内研修の充実	人権問題に関する知識を充実し、考察を深める研修を主催者が行うとともに、校外での各種研修への参加を促す	C 新型コロナによる休校で、長期休暇中に授業確保が行われたこと、感染防止による研修中止のためできなかった。
	生徒の人権意識向上	他を尊重する態度の育成	研修の充実、日ごろの教育活動における指導の充実	校外の講師を招いた研修会を開催。また、集会、LIRなどの機会を利用し、主催者等が講話などを行う。	B 研修はできなかったが、LGBTの生徒に対する対応を検討し、即時対応できるものは実行し、制服についてはデザインを含め制服委員会で検討中である。
いじめの防止等	いじめの実態把握	いじめの早期発見に努める	いじめに対する学校としての方針を徹底すると同時にそれらを生徒に周知する機会を設ける。	基本目標として、『いじめをしない、させない、そしていじめを許さない』を念頭に置き、学期末や、学年集会等で繰り返し話を行う。いじめに関するアンケートを行い学校生活の普段から内情を把握する。	A 2学期にいじめに関するアンケートを無記名で行い、そこに上がってきた事例を学年団に返し、現在どのような状況であるのかつぶさに訪ねた。学年団で当事者同士に話し合いをさせたり、担任が個人面談を行い、解決の方向に向かっていく。しかし、アンケートに書けない事

					例こそ根深い問題を抱えているので、普段の表情や様子などを観察していく手法も大切である。	
	指導体制の整備	各部署との連携を図り、いじめを未然に防ぐことのできる体制づくりに努める。	常日頃から担任、学年主任、そして教育相談、スクールカウンセラー、生徒指導部の連携を図る。	いじめ防止対策委員会を機能させ、指導体制の組織化を図ると同時に、常日頃より、学年主任と『気になる生徒』に対する情報交換を密に行う。	A	各学年団の会議で、「気になる生徒」【問題行動・長欠・遅刻・学力低下など】の事例を挙げ、それぞれの生徒の今のありようを話し合い、情報を共有化し、普段の日常生活における声掛けや、接し方に応用する事ができていた。
図書館教育	読書活動の充実	読書活動の推進	生徒が主体的に図書館を利用し読書活動ができるよう環境を整える。	・図書室を使いやすくするために本の整理をし、棚の配置を工夫する。	B	昼休み、放課後に図書室を開放することができたので、生徒が図書室に来室することが増え、貸出数も昨年度に比べて多くなった。ただし、図書委員が活躍する機会が少なかったため、次年度は図書委員が活躍できるように工夫する必要があると感じた。
	各教科との連携	蔵書に偏りなく豊富な資料の確保	どの教科の授業でも、調べ学習等で図書館を利用できるように、幅広い資料をそろえる。	・昼休み、放課後に図書委員が貸出し業務をする。”	B	定期的に新規の資料を購入することができた。古い資料については依然廃棄するには至っていないので、次年度以降、古い資料の廃棄を行う必要がある。また、教職員へのアンケートも実施できなかったため、幅広い分野において最新の資料を用意するためにも、各教科の先生方との連携も図りたい。
学校保健	心身の健康に興味・関心を持ち、主体的に健康で安全な生活を送ることのできる生徒を育成する	心身の健康への興味関心の向上と、健康管理・傷病予防の為の実践力育成	①生徒が自身の健康状態を把握・保持増進する機会を設ける ②心身の健康に対する興味関心の向上と正しい知識の習得 ③生涯にわたり自他共に健康で安全な生活を、主体的に送るための知識習得や自尊心向上を目指す	・保険調査票や健康診断の結果などを基に個別指導・校外連携を行う ・保健室来室時、再発の予防や適切なセルフケアの方法を指導する ・配布物や掲示物等を活用し、季節に応じた保健便りの発行及び校内掲示物の工夫を図る	B	・保険調査票や健康診断結果を基に生徒へ個別対応を行い、必要時には教職員や保護者との連携を図った。また、定期健康診断の事後対応として、治療や精密検査等が必要な各家庭に受診勧告し、受診結果に応じた対応を行った。今後も学校検診及び各家庭での受診率向上を目指し、教職員や保護者との連携を取りやすい関係を築いていくことが求められる。 ・体調不良や負傷等で来室した生徒に、それらが生じた原因や背景だけでなく予防法と一緒に考えながら対応するよう心がけた。今後はセルフケアや疾病予防の観点から、より生徒が納得できるような、わかりやすく簡潔な説明ができるよう意識していきたい。 ・今年度、保健便りは季節や行事(校内献血等)に併せて2度発行。保健室前掲示板には季節に応じた写真社新聞の記事やポスターを掲示し、生徒の健康への意識向上や学びが深まるよう働きかけた。次年度も保健便りや掲示物の選択等に力を入れ、生徒が健康情報に触れる機会を増

					<p>やしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の観点から、例年行っていた普通救命講習や献血セミナー等を中止。次年度は感染予防策を講じながら、学習の機会を設けたい。
学校環境の整備を行い、美化意識の向上を図る	環境美化の推進	<p>①清掃指導の徹底及び環境美化の意識を高める活動の推進</p> <p>②法に基づいた学校環境衛生の維持管理及び改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校薬剤師の指導に基づき、環境検査・環境整備を実施し、改善を図る(新型コロナウイルス感染予防対策) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防策の1つとして掃除方法の変更(一斉清掃を当番制にし、モップメインの掃除法へ)を行った。次年度は感染対策の視点を踏まえつつ掃除方法等を検討していく必要がある。 ・各クラスや各掃除監督に対物用消毒シートを配布、掃除時等での活用を促した。 ・感染対策の一環として、校舎や教室等への入口を始めとした校内80ヶ所以上に手指消毒液を設置。また、掲示物等で感染予防活動の推進を図った。今後も専門家の意見を参考に継続的対応が必要となる。 ・例年行っている環境検査を始め、感染対策関連について学校薬剤師の指導助言をもとに対応を行った。

4 学校関係者評価

<校長>学校教育目標、重点目標は基本的に前年と変わっていない。教師の自己評価総括表の中でもC評価(できていない)が、「学力向上」で本年度も「わかる授業の取組」で教育力を高めるため研究授業を実施することを確認したが、実施できなかった教科もあり、最終的に成果が出たか判断することが難しいということでC評価となった。次年度も、引き続き目標として掲げている。看護学科のタブレット全学年導入もあり、分かり易い授業をするためタブレット等の研修も中期経営計画の中に組み込み、自己評価がBまたはAになるように考えている。進路に関しては、一人一人の進路目標達成を目指したが、5%程度の生徒がアルバイト等で未定者となった。例年、オープンキャンパス等に参加し、どのような学校なのか、雰囲気などを判断して決定していたものが、新型コロナウイルスの関係で体験することがほとんどできなかった。県内企業は企業見学という形で、ある程度受け入れてくれたがそれでも見学を自粛され十分な情報を集めることができなかったということを含めC評価となっている。次に、人権教育の推進で「校内研修の充実」を掲げたが、新型コロナ感染予防のため講師招聘できず全体研修を行うことができなかったということでC評価となった。そのほかの項目に関してはおおむねB評価以上となっている。そこで、C評価となった項目に注目し、保護者の評価を見る。進級・卒業率の目標は95%以上であったが、高校で98.2%(転退学者14名)で年々改善されてきている。専攻科は19名の退学者が一昨年度はいたが、今年は98.1%(6名)と改善された。次年度以降3年間の目標は97%としている。出席率、遅刻欠席も改善され、半分以上の生徒が欠席0の精進賞、成績優秀賞も37.8%の生徒が表彰され良い成果となった。単位未修得者で特に難しい看護専門科目で毎年多く出ることへの対応として、今年度から看護学科全学年タブレット導入し電子教科書を取り入れて改善を図っているところである。また、看護師国家試験では昨年度82.2%の合格率であったが、今年度は93.3%と伸びたが、5名の不合格が出たことは残念であり次年度には全員合格できるよう努力していきたい。次に、教師の自己評価と保護者アンケート結果について、学校運営・教育方針の反映については教員は概ねA・Bで9割程度であるが保護者では34.6%となっている。これは教育方針は生徒たちには伝える機会があっても入学式以外で保護者の方々に伝える機会は少ないので難しく感じているが、約65%の方は概ね理解していると答えられていたことはありがたい。次に、学校生活において39.4%の方が授業・行事への参加ができていないと評価された点は、保護者の方の仕事や学校の新型コロナ感染防止対策で「密を作らない」ということで何もできていない状況であったため、感染数が減れば何らかの形で次年度はやっていきたい。学習指導で教師の自己評価は「分かりやすい授業」は「できている」と「できていない」が半分半分であり、教員自身が厳しく評価されている結果を考慮してもできていないと考えている。保護者の方も「C」が34.4%と3割超のかたができていないと指摘されたと考えている。このような数字のため授業の理解についても同様の数字となっている。もう一つは家庭学習ができていないかでは、48%の方ができていないと考えられている。生徒のアンケートで家庭学習時間は1時間以上は38.5%、30分以下が23.3%、やっていない生徒が36.5%ということで、60%の生徒がほとんどやっていないということを見ると、保護者ができていないということもうなづける。学校では宿題や課題・レポートを宅習ノートで提出するようにしているが最低30分以上はかかるものだと考えており、次年度は取り組みを強化していきたい。次に、生徒指導のいじめや悪い行動への指導、厳しくも優しい指導で教員の方では98%ができていないと答えているが、保護者の方からは3割の方からできていないのではないかと答えられている。基本的にいじめという事案は昨年度はなかった。しかし、悪い行動への指導(髪型、服装、言葉遣い、態度)は通常の生活の中で指導を行っているが、厳しいけど優しい言葉遣いできなかったという指摘は分はあったのかと考えている。生徒のアンケートでほとんどの生徒がだいたい良かったと答えているが、特に気になったのは、スマートフォンの使用時間であり3時間以上が32.1%、4時間以上36.1%いた。7割の近くの生徒が何をやっていたのかというとネットゲームが56.5%、音楽やテレビが29.5%いるので、このことが家庭学習時間と反比例になっていると思われる。最後に、生徒指導で実際に処分を受けた事案は11件(深夜徘徊、飲酒、喫煙、外泊、窃盗、暴力)あった。これらの事案の中でSNSがらみの問題もあり、次年度に向けても注意喚起し、指導していきたい。

<委員長>

本当に厳しい学校生活1年間の振り返りの中、例年と比較し向上できたところ、悪くなったところや聞きたいこと、学校へのご助言を委員に伝える。

<委員>

気になった点は、生徒が登校時は時間がないためさっさと行くが、下校時は(小学校や中学校でも同じだが)道路に広がってゆっくり歩くため大変危険である。端の方を速やかに歩いていくように学校で指導していただきたい。永年近くで生徒たちを見ていて格段に良くなってきているのは先生たちの指導がよいのではと考えている。

<委員長>ニュースによると、生徒の事故が多い時間帯は15:00~18:00の下校時間である。学校が終わって気が緩み、交通ルールなどが守られていないことや、冬の薄暮も関係し一番多く発生しているということなので、交通ルールの徹底を今一度やっていただきたい。私もこの近くに住んでいるが、自転車に慣れていない1年生に対し、1学期初めの時期に必要なではないかと考えている。

<委員>

個人的には、学校に対して特別こうして欲しいというものはなく、子供が楽しく学校に行っていることが一番である。保護者から学校に対しての要望はたくさんあると思うが、全部の意見を取り入れることはできないと思うので、学校が一定の方針を持って改善していただきたい。今の中高生は多感な時期であり、全部を

ダメだと言うと反発してさらに悪くなるため、ある程度自由を持たせて大事なところを締めただけだと思っ

＜委員長＞

昨年度はコロナ下で難しかったと思うが、生徒アンケートで「入学して良かった」が78.2%、「目標ができた」が20%、「検定取得できた」が20.5%というこ

＜委員＞

昨年の4月より熊本中央高校のスクールサポーターに着任しました。各学校回っているが、生徒指導事案はどれも同じ傾向にあるのではないかと感じている。

＜委員長＞

自動車の運転中に車道を走る自転車と危険な場面に遭遇するので登下校は十分注意していただきたい。もう一点、SNS問題による誹謗中傷、飲酒喫煙とい

5 総合評価

- (1) 学校運営においては、教育方針の反映や学校生活での基本的な生活習慣の定着、健康安全指導や人権尊重の姿勢は概ねできており、適切な評価、教育環境整備、進路指導や保護者との連携は70%以上できていると評価できる。

6 次年度への課題・改善策

- (1) 学校経営においては次年度も引き続き、教育方針に基づき、生徒指導に取り組むとともに、生徒の夢・目標と自己実現が達成できるように全教職員一致協力して努力していくこととする。

令和2年度 学校評価（自己評価・関係者評価）について報告します。

令和3年5月6日

学校法人 加寿美学園
熊本中央高等学校
理事長 竹下 英 様

熊本中央高等学校
学校長 池田 廣

Table with 4 columns: 決裁, 理事長 竹下 英, 学校長 池田 廣, 教頭 古澤 哲二, 事務長 柴田 徹